

策定年月	令和6年5月
見直し年月	令和〇年〇月

麦国産化プラン

産地名：柳川市

（作成主体：矢ヶ部営農組合）

1. 麦生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○現状と課題

〈麦〉

- ・令和5年産は、「シロガネコムギ」、「ミナミノカオリ」を作付し、面積は35.9ha。
- ・近年は、弾丸暗渠や額縁明渠等の排水対策の施工率が向上し、湿害による生育抑制が減少。生育量を十分確保でき、収量が向上。
- ・一部のほ場で酸性土壌による生育の抑制が発生しているため、土壌診断に基づく土づくりが課題。
- ・収量やタンパク質含有率は、年次変動が大きいいため、収量・品質の安定が必要。特に、実需者からタンパク質含有率12%以上を求められる硬質小麦「ミナミノカオリ」は、品質安定のため、生育に応じた穂揃い期追肥が課題。

○課題解決に向けた取組方針

〈麦〉

- ・酸性害による生育抑制を改善するため、土壌診断に応じた土壌改良資材散布を実施。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

〈麦〉
矢ヶ部営農組合で生産した「シロガネコムギ」、「ミナミノカオリ」の数量は185,501kg
生産した「シロガネコムギ」「ミナミノカオリ」はJAへ全量出荷し、JAから全農ふくれんへ委託販売
全農ふくれんより実需者（非公表）へ販売

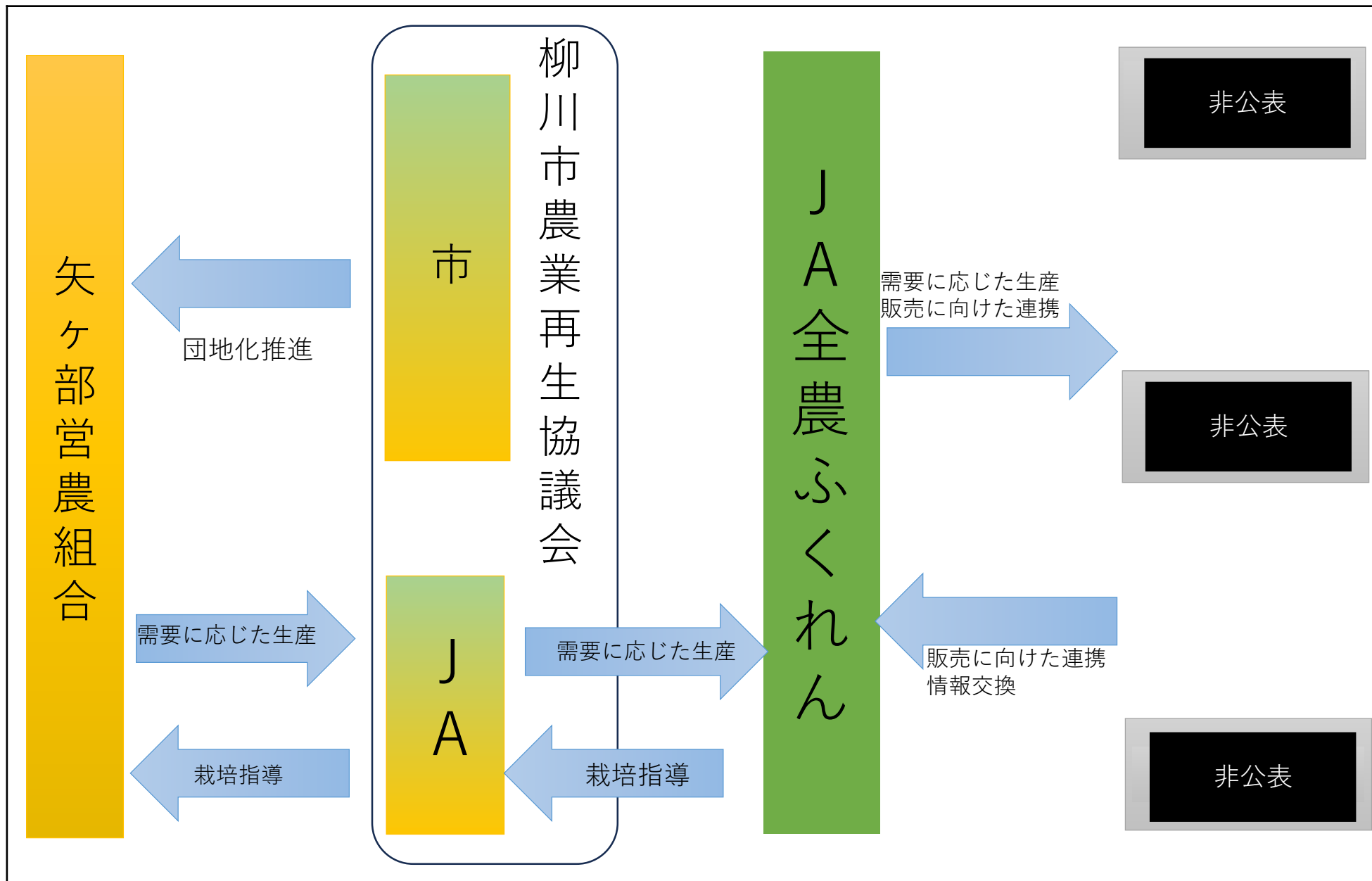
意見交換を実施し、求められる単収の向上に応えるため、土壌診断分析による土づくりを実施する。

〈国産小麦取扱量〉

品種名	産地取扱量		実需者取扱量	
	現状 (令和 5 年度)	目標 (令和 9 年度)	現状 (令和 5 年度)	目標 (令和 9 年度)
シロガネコムギ	111,059	141,029	111,059	141,029
ミナミノカオリ	74,442	94,531	74,442	94,531

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。
※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。